

## 大学志願者の学習意欲と受験行動に対するカリキュラム編成タイプの効果

研究開発部試験環境研究部門 荒 牧 草 平

この小論は、今日の高校教育改革によって多様化したカリキュラム編成の影響を、大学進学志願者の学習意欲や受験行動の観点から検討する。具体的には、高校における多様なカリキュラムを改革理念への対応状況に基づいて類型化し、各タイプが高校生の学習時間、内発的学習意欲、受験方法、等にもどう影響しているかを、生徒への質問紙調査のデータを使用して明らかにする。分析にあたっては、各目的変数に対するカリキュラム編成タイプ独自の効果を検討するため、重回帰分析によって、生徒の属性（学校の成績・性別・カリキュラム選好）および在籍高校の序列階層上の位置づけをコントロールした。

研究の主たる目的は、改革理念である「生徒の個性や主体性の尊重」を積極的に推進するタイプのカリキュラムが、生徒の学習意欲を高めるか否か、大学教育への適切な準備学習を促すか否か、を検討することにある。

分析結果の概要は、以下の6点にま

とめられる。1) 大学志願者か否かに拘わらず、内発的学習意欲は総合型のみが高い。2) 大学志願者の学習時間は、総合型・自由型・専門型は短く中間型は長い。3) 内発的学習意欲は学習時間と関連しない。4) 大学志願者の受験教科数は、専門型と自由型は少なく中間型は多い。5) 受験教科数は学習時間に対して正の効果を持つ。6) 学習時間に対する自由型・専門型・中間型の効果は、受験教科数を考慮すると消滅する。

以上の結果は、生徒の個性や主体性に配慮したカリキュラムが学習意欲を高めたり、適切な受験準備学習を導くとは言えないこと、学習時間は内発的学習意欲に導かれることはなく、受験方法に強く依存することを示している。